



北山田小だより

横浜市立北山田小学校
校長 板倉 千鶴

「One for all, All for one」

副校長 宮本 仁司

スポーツの秋真っ盛り。バスケットボールWC・WCバレーボール・サッカーWCアジア予選・世界陸上・プロ野球・等、連日のように様々なスポーツ中継が行われ、また行われています。中でも一番の盛り上がりはラグビーWCではないでしょうか。大会の決勝戦はこれからですが、ラグビー・ワールドカップを戦った日本代表は、多くの興奮と感動を与えてくれました。学校でも休み時間にはボールを抱えて走り、明らかにラグビーを意識した遊びをしている姿が見られました。

では、子どもたちにとってラグビーが初めてかということ、そうではありません。一つ前の学習指導要領の改訂が2008年にあり、2011年から施行された小学校の学習指導要領解説書(体育編)にゴール型の運動として「タグラグビー」が例示され、本校のカリキュラムにも入っています。ちなみに、タグラグビーはラグビーから生まれた新しいスポーツで、日本ラグビー協会が1997年から積極的に普及に努め、2005年から全国小学生タグラグビー選手権も開催されています。本校も今年度、出前授業を行っていただきました。



さて、今回の大会では、グラウンドで見せる一流のプレーでラグビーの醍醐味を知るだけでなく、試合が終われば敵も味方もなくお互いを讃え合うノーサイドの精神や声援を送ってくれるファンへの感謝を示す行為としてのすっきりお馴染みになったお辞儀の光景、試合後のロッカールームの清掃、被災地でのボランティア活動、出身国・国籍を超えての代表への想いなどコーチ・選手から語られる言葉や取材で明かされるエピソードなどから一人ひとりが様々な感銘を受けたり、考えたりすることができたのではないかと思います。

私が一つ挙げるならば、「あるとしたら、何千回のプレーのうちの一回くらいの可能性」と話した稲垣選手のトライです。(本人も7年間の代表で初トライと言っていました、背番号1のプロップの選手がトライを挙げるのはW杯の日本代表で初なのです。)テレビのインタビューで、「あれは倒された後のフォローをするために走っていた。」と言っていたのが心に残ったからです。

よくラグビーなどのチームスポーツの合言葉のように使われるものに「One for all, All for one」という言葉を聞きます。「一人はみんなのために、みんなは一人のために」と訳されますが、ラグビー選手・監督して有名な平尾誠二さんは、オール・フォー・ワンの「ワン」とは「一人」という意味ではなく「ひとつの目的のために」＝勝利として話すこともあったそうです。というのも、ラグビーというのはポジションごとの役割が定まっており、そのポジションの人が自分の役割を果たさないと、トライが取れないスポーツであり、体格もスキルもパワーもそれぞれが違う15人が、仲間を信頼して初めてチームが成り立つからです。また、前回大会で活躍した五郎丸歩さんも、ラグビーを「それぞれの個性を活かし、みんなでひとつの目標に向かって頑張るスポーツ」と紹介し、その良さの一つとして、全員で勝つために、一人ひとりが全力で役割を果たす「見返りを求めず、だれかのために無心で頑張る」と言っています。まさに今回の稲垣選手のトライは、フォワードとして誰よりも早く仲間をフォローしに行く献身的な動きの結果だったわけです。

先日、本校でも運動会が終了しました。運動が得意な子もいれば苦手な子もいる、声が大きなきもいれば小さな子もいる、絵が得意な子もいれば苦手な子もいる。いろいろな個性を持つ子たちが運動会という一つの目標に向かって頑張ったことと思います。

今年度もまだ5カ月あり、行事もたくさん残っています。各クラス・学校でも「誰が優秀か」などではなく、それぞれの役割をきちんと果たしながら、一つの目的に向かって機能し、お互いを敬い、フォローしながら「One for all, All for one」で頑張っていきたいと思います。